令和元年度　第１回学校関係者評価委員会議事録　　　　　　記録　谷山

１　期日　　令和元年６月26日（水）

２　時間　　15：00～16：30

３　場所　　屋久島高校会議室

４　内容

(1)　開会のことば

(2)　校長あいさつ

・出席御礼と今回の委員会の趣旨説明

・学校の状況説明と生徒募集について（県外への呼びかけなど）

(3)　説明Ⅰ　　学校概況について（堂薗教頭）

　・学校の歴史

　・ホームルーム編成

　・学校紹介（行事，進路，学科，部活など）

　・地域みらい留学について（大阪会場での成果報告）

　・学校ブログについて

(4)　説明Ⅱ　活力と潤いに満ちた特色ある学校づくり

教務部

・資料の説明（行事の精選と教育課程の編成について）

進路指導部

・資料の説明（進路資料室の有効活用について）

生徒指導部

・資料の説明（支援シートの充実について）

保健部

　・資料の説明（虫歯治療率５０パーセント達成という目標について）

評価委員より質問

【　保健部　】

　Ｑ．昨年度は何パーセントだったか。（鎌田）

Ａ．３０パーセント程度。今年度も治療済みの報告は１名という状況。（田中）

　【　教務部　】

　　Ｑ．行事の精選とは今までやってきた活動をしない方向へシフトしていくということ

か。ぽんだまの活動など生徒のためにもなると思い，紹介していたが授業ができない

などの話を聞くと，こちらも考えないといけないと感じた。（榎）

　Ａ．「行わない」のではなく，簡素化したいということ。ぽんだまについては２年前に整理できた。授業確保を考え，講演会の頻度や必要性を見直したいということ。（児玉）

Ｑ．環境コースが文系・理系がはっきり分からない。大学進学に対応した取り組みをした方が良いのではないか。（矢野）

Ａ．①理系の進学希望者には化学，文系の進学希望者には倫理と政治経済を選択させている。

　　②科目選択のことももちろんだが，実習や研修などの経験を売りにして進学を目指してほしい。（昨年度の慶応大学合格の話を例に挙げ説明）　（児玉）

その他：ぽんだまでボランティア活動はしているが，赤十字奉仕団に対する意識を高めることやリーダー育成の観点からも，ぜひ屋久島高校にも赤十字奉仕団に参加してもらいたい。（山﨑）

(5)　協議

生徒募集について

鎌田：関東や関西方面にいる卒業生や屋久島出身者を有効活用した方が良い。また島内で

は，ＩターンやＵターンで他の地域から来た方を有効活用した方が良いと思う。違っ

た視点で屋久島の魅力を伝えてくれるだろう。

榎：地域みらい留学の説明会では一団体にどのくらいの説明時間があったのか。

教頭：全体で２６人来た。だいたい１０分説明し，質疑応答を５分程度。

榎：まずは町でも受け入れ体制を整える必要がある。

教頭：他の地域は町の担当者も来ていた。町も力を入れている印象があった。

鎌田：受け入れ可能と伝えられることが大切ではないか。

校長：現時点では２～３カ所はありそう。

鎌田：教員宿舎でも空いてるところがある。方法はまだあると思う。

榎：問題は食事。家の提供は良いと言ってくださる方は多い。

　　町は今後２，３年様子を見て増えるようであれば寮を建設するという話もしていた

がそれでは遅いのではないか。

　校長：古仁屋高校は６月の説明会を受けて，８月から寮の建設を始めたそうである。

近年の中学生の推移を見ていると，現時点では２０名は受け入れられると考えて

いる。南大隅では，ホテルを買い取り寮に作り替えたという話を聞いた。

　鎌田：そういった情報を集めて町に提示する必要がある。

　榎：説明会などの手応えも町に伝えてほしい。

　教頭：地元の中学生の屋久島高校の印象はどうか。

　中央中教頭：多くが屋久島高校に進学するので悪い印象はないと思う。島外にいく生徒は「友人」や「今後の進路」などの理由がありそう。

鎌田：在校生のビデオメッセージは良かった。生徒目線での魅力を伝えてくれる。

　榎：先生や保護者よりも友人同士の話できめてしまうのでは。

　鎌田：体験入学の参加者を３年生に限定しなくて良いのではないか。大学もＯＣは１，２

年生でも参加できる。

　山﨑：屋久島高校の一生懸命な姿はよく話に聞く。在校生の言葉を伝える機会を中学１，２年生や小学生まで広げても良いのではないか。

教頭：パンフレットも今年から生徒主体にして広く配布できるように準備している。

鎌田：どのくらい作っているか。

教頭：１４００部。島内の中学３年生には一人一部渡せるようにしている。

榎：文化祭が第２土曜と重なる問題は解決できないか。

校長：中学も高校も難しい。

中央中教頭：学校だけで決められることではない。

山﨑：中央中は屋久島高校の活動に触れる場面が多いから，屋久島高校への進学率も高いと思う。安房や岳南からの進学者が少ないが，先生達の意識はどうか。

校長：本土に行く理由の１つは部活動である。そして進学校にいく生徒達もいる。他には看護系へ芸術系の進路のために出る生徒もいる。中学生の保護者にも屋久島高校の現状や魅力を伝えたい。

鎌田：やはり行事を見せるのが良いのではないか。

教頭：演劇部が安房中にいって講演するという活動もある。

(6)　連絡事項

　　今後のスケジュールについて

(7)　閉会のことば